

所属・氏名（ 看護学部 看護学科 氏名：宮本 純子 ）

著書、学術論文等の名称		単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1	(著書) 学校保健[第二版]	共著	2025 年 5 月	ミネルヴァ書房	災害時の養護教諭の役割について執筆した。 ＜森田健宏、田爪宏二、柳園順子他、 <u>宮本純子</u> ＞
2	(学術論文) COVID-19 流行拡大初期に 感染者への対応で 保健所保 健師が経験した葛藤	共著	2025 年 12 月	日本地域看護学会 誌, 28(3), 21-30	COVID-19 パンデミックの初期において、保健所保 健師が感染者への対応で経験した葛藤の様相を明 らかにした。保健所保健師の葛藤をもたらす核と なる現象は【感染者らの苦悩を間接的直接的に知 る】であった。感染者らの《不安・混乱に直面》 から始まり、《支援の迷い・もやもやした気持ち・ 後悔の念》または《成長の実感または希求・経験 からの学び》に帰結した。＜牛尾裕子、松尾香織、 藤田さやか、水川真理子、 <u>宮本純子</u> ＞
3	(学術論文) COVID-19 軽症感染者の社 会復帰に向けた支援ニーズ 軽症者等療養施設入所療養 者への調査から－ 《筆頭論文》	共著	2024 年 12 月	日本災害看護学会 誌 26 (2) 31 -41	軽症者宿泊療養施設を退所後の軽症感染者に調査 を行った。後遺症への不安、誹謗中傷や職場復帰 する際に受け入れられにくい問題を抱えており、 就労・雇用に関連するものを含めた迅速な情報、 相談窓口の提供、感染者の経験を活かす場作り、 受け入れ側への教育・啓蒙の必要性が明らかにな った。＜宮本純子、高田大樹、牛尾裕子、藤田さ やか、水川真理子＞
4	(学術論文) 国際緊急援助における医療 チームの遺体管理体制につ いての考察	共著	2024 年 6 月	日本災害医学会誌, 29 (2) 104-109	WHO の EMT 国際認証を受けるには、最低技術基 準を満たすことが求められている。JDR 医療チ ームでは被災国で適切な遺体管理ができるようガイ ドライン、標準手順書、様式の整備の改訂を行 い、運用の検証、課題の抽出を行った。平時より EMT や関係諸国とのネットワークの中で体制を充 実しつつ、派遣時には多くの EMT や機関と協働 しつつ質の保証された遺体管理の実施が求められ ている。＜岡本美代子、 <u>宮本純子</u> 、三浦由紀子、 南嶋里佳、甲斐聡一朗、稲葉基高、久保達彦＞
5	(学術論文) Community resilience of women in rural areas of Lempira in the Republic of Honduras 《筆頭論文》	共著	2023 年 12 月	Población y Salud en Mesoamérica21(2)	ホンジュラス共和国で、女性を対象にコミュニ ティレジリエンスに関する調査を実施。人々は自宅 では備えをしていないが、リーダーがトレーニ ングを受けていることで備えができていると認識し ていた。コミュニティレジリエンスに対し、結束 型ソーシャルキャピタルはマイナスに働き、橋渡 し型ソーシャルキャピタルはプラスに働いた。初 等教育修了者と未修了者との間でレジリエンスの 差があったが、それ以上の学歴の人とは差がなか った。災害対応を考える上では、現地の文化を理 解する必要がある。また、初等教育の重要性が明 らかになった。 ＜ <u>Junko Miyamoto</u> , Minato Nakazawa＞
6	(学術論文) Communication for self-care and the role of a logbook on health risk during a flood disaster 《筆頭論文》	共著	2023 年 3 月	Health Emergency and Disaster Nursing 10 (1) 29-40	西日本豪雨災害で被災したログブックの利用者へ 調査を実施。被災当初は目の前の出来事に対処す ることで精一杯だったが、被災後 2 ヶ月目は経験を振 り返るターニングポイントになっていた。直面する 問題についての情報共有が重要であり、ログブック の役割は 「振り返りに役立った」「心が安らいだ」 「連絡に役立った」「季節の行事を思い出させてく れる」など、外部からの支援が困難な災害時であっ ても平常時に培ったセルフケアや地域社会とのつ ながりが不可欠であることが示唆された。 ＜ <u>Junko Miyamoto</u> , Noriko Hatakeyama, Sakiko Kanbara＞